



人騒がせの仲間喧嘩

益々紛糾悪化の徴あり

目下石城政界の問題として一般の注視を集めつゝある民政黨俱樂部が縣議野崎満藏氏を除名したるに就いては黨人各自其の立場を異にするものあり従つて見解二様に別れ各紙又其の報ずる處を異にするより之を載録するこのものであつたといふ承認の書面が來てゐるので五月上旬總會を開き過般民政黨俱樂部に開いた總會で決定した幹部會長若松美三氏外除名を除名する等である

▲二十九日の時報紙上に曰く今回開いた民政黨總會は全く不純なもので石城民政黨の長老である、漆畑元吉氏等にさへ通知が來ない。集つた者は湯本町の人々と平町の一部の人々だといつてゐる。而も午前十時開會の管であつたといふが、總會は十時前に終つた由で石城郡全部の人々の會合ではなかつたと思ふ、石城郡全部の黨員によつて除名されたならば仕方がないけれどもさうした不純な決議には服従するわけにはいかぬ、比佐氏には私に絶交状を出した事がある、比佐君が三坂村の演説

つて居る所へ落選して路頭に迷ふ君が當選して僕を絶交する前に僕から絶交すると云ふ様な事は世間がどう解釋して呉れるか今更同書状に對する辯明も聲明もあるまい比佐氏は確かに落選だと思つて此の書状を出して置いて運動演説に對する忠言だと云ふなら一層笑止千萬である。

是非曲直何れに在りや此の問題は益々超特大人的演説が演じられることであらう。

青眼

淺野氏の百萬寄附がフイになつてしまふては一大事、小名濱町としては死活的岐路に立つた観がある是れに對して縣當局を鞭撻し折衝し其運動の重任に當らせるにも小野並平氏の如き人物を町から選出しなければならぬと愈々馬力をかけて秋の縣議戦を今から地方民は待ち遠しくつてゐる

◆小名濱町の大引網事件は先月十六日仙台控訴院で結審近く判決がある筈である

◆菊田方面の政見兩派は非常に圓滑化して來た観がある

◆古川縣南の縣議選出馬は先づ方々らしい若し比佐氏の交際面から明日開票と云ふ可親同志が當落を氣遣の町長に比佐出ないですれ

石城 民政紛糾正批稿投紙

所住御	
名芳御	

今回の石城民政黨紛擾に對し第三者の立場より最も公明なる可否の批評を不偏不黨の報道評論紙として各方面より嚴正なる批判を仰ぎ之を紙上に勇敢に發表したく愛讀者各位の可否に對する御高見を上余白に御記入御送付被下らば幸甚の至りでありませう御投稿の場合は切手未納等は決して苦しからず結構でありませうが御住所御肩書お記入願ひたし併し紙上匿名は可致致します。

農村便り

三度古川氏推薦を見ん政見兩派は猛運動は絶対に避けて金の力からぬ方策を講ずるらしい地方ではあまりに政争の激烈はよろしからぬことである。

必然的結果として農産物の大落着を來し農民収入の激減を招來したことに基因する

× 都市中心、商工偏重の政治は東洋模倣の物質文化にその源を發してゐる故にこの時弊を一掃するには先づ政治上において「中央集権の制度」を緩和し更に産業上においては「都市中心、商工偏重」の方針を改め政治經濟共に農村、農民を中心とした精神文化の建設に最善の努力を傾倒しなければならぬと思ふ。

× 我國農村疲弊の遠因は過去久しきにわたり「中央集権」筆者は素より「經濟日本」の及「都市中心、商工偏重」立直しに反對するものではなからぬが、現内閣の金解つと大切なことは「精神日本」の再建である。

× 昭和五年における農産物の値下りによる農家の損失は實に十二億五千萬圓に達したるに財産収入労働収入の減少をも加へるならば十億圓にも達するであらう

× 昭和五年に於いては農家の純収入減は八億圓を下らぬ故に農家一月の損失額は約百四、五十圓にあたることである

× 農家の収入は激減したが負擔は更にへらぬ、現今農家の公租公課の負擔は一月當り九十三圓一人當り十六圓だといふしかも収入に對する負擔の割合は商工業者に對し二倍乃至三倍に達せられてゐるからたまらぬ、現内閣は昭和六年度において

高久病院

平町田町 電五五三

内科 小兒科
耳鼻咽喉科 外科 花柳病科
レントゲン科

せんがため減税では事務の繁雜を來す以外に何等の利益を來さぬ、農家収入の五割乃至八割を公租公課に納めねばならぬといふ今日農民は正にその存続も危ういのだ。(以下二面ト段へ)

成績優良の平信用組合 庶民金融の本領を發揮す

營業方針最も公平 當事者の人格と手腕

平信用組合が所謂庶民金融の活動振りをより新加入員二百五十名、山二下三萬の本部を發揮して平均に於て昨年中二百十五名本年に至つて既に六十名、名約三百名の増加を見て居るののである、目下の貸出総額二十七萬圓を突破し、漸じて固定せしむるに努むることは地方的な経済界に貢献甚大なることである、

民の認めるところ

事務四名にて處理し、永井五郎氏の如き實務精通者が勤め、勉めて居るのである、斯くも優良組合たるものは左記の役員諸氏の眞剣熱誠なる結果である、

熱誠なる結果である

理事長青沼謙太郎氏の熱心努力の手腕と業務の反映である、整理の手腕と業務の熱心努力の手腕と業務の反映である、

整理の手腕と業務の熱心努力の手腕と業務の反映である

理事長青沼謙太郎、理事野崎滿藏、柏原幸次郎、星野清吉、阿部政右門、關内正一、三森隆雄、監事花澤久一郎、阪本隆藏、鈴木重助諸氏、

功績

力と云はざるを得ない、昨日の平均出入額は、一萬二千圓、内外で件数二百五十貸出平均四件、金額一十圓以上である、斯くの如く、

一十圓以上である、斯くの如く、

破産と公金 成行き注目

破産銀行は破産と決定し、警備第一番では破産を宣告されたので、其の運命も時期の問題であらうと見られて居る、

二十余萬の町村及各種團體の公金は如何に解決されるか、平信用組合の如き兩銀行に對し、元金の二萬一千八百八十七圓を有し、昨年六月十二日の町會に於て、議員の間に伏見町長は責任を辭さない、と宣言したことは、當時の記事をよると、

組合長獨立

分譲と決定か

平信用組合は本年十二月の兼任組合長であつたが、今全國農協連盟會地方幹部に鈴木重助氏推薦された、

決定するもの、如し一方、料理屋組合は本年十二月の役員改選期まで組合長責任をせず、組合長代理として、藤野佐藤次郎氏其の任に當る事となり、

藝妓料理屋共各自組合長を置くことなるらしき模様である、

町

若葉會開催

平町に於ては近來頗る賑太、天然高潮の辨護士商店の主人其他知識階級に咽喉の慢、自ら其の術を磨きつゝあり、師匠に二派あり門弟何れも多數あり、

多量あり、この然して、若葉會の開催は、

大會を開催して大向ふをうならせる準備中なりと云ふ、

小夜嵐の一刀

浪花節

社中同人作

悪いことにも程がある、世に恐ろしき人殺し、

斯る鬼とは知らずして、情のこもる一言は、

折しも巡回の警官「おおい、まいはの邊の人か、」

やうです、下川原の宿やです、「この夜更けに何をして居るんだ、」

「へい、待合せの人があるんで、」

「大せめ」決心したる五郎さん、ゆるみし帯をしめ直し、小股走りの急ぎ足、

「三味線」我家の軒へ近寄た、見れば日頃の赤犬は、我を主人と心得て喜び勇んで出迎へた、

「節」はろりと落る一帯、静かに戸を開け内へ這入り、見れば兩親は不在、當の娘はなほ如何なる夢や結ぶらむ白河夜船の高じびき、最早これまでなりと細工に仕舞置きたる短刀を取り、だし、さやを拂へば光茫一閃、道手に持てたしかに一、鮮血まじはるは、

「節」近く裁判法廷で判決受くる五郎さん、哀れいふも哀れなり、つゝ、しむべきは色の道たしなぬべきは短慮なり、

大和印刷所

投書歓迎

